

平成26年度病害虫発生予察指導情報

(ナシ・越冬害虫)

平成27年1月5日
鳥取県病害虫防除所

〔 ハダニ類 〕

1. 情報の内容

- (1) 県内巡回定点におけるカンザワハダニの越冬量は、1バンドあたり平均52.0頭（前年：0頭、
平年：1.3頭）で、越冬密度の高い地点がみられている。
- (2) ナミハダニの越冬量は1バンド当たり0.5頭（前年：0頭、平年：0.0頭）であった。
- (3) クワオオハダニの休眠卵数は1短果枝当たり0.5個（前年：0.7個、平年：3.7個）と前年
並で平年よりやや少ない。

表1 ナシにおけるハダニ類の越冬密度

調査地点		カンザワハダニ（成虫） ²			ナミハダニ（成虫） ²			クワオオハダニ（越冬卵）		
		本年	前年	平年 ¹	本年	前年	平年 ¹	本年	前年	平年 ¹
東部	鳥取市 佐治町	0	0	2.5	0	0	0.0	0	0	5.1
	鳥取市 青谷町	0	0	0.6	0	0	0.0	0	0	0.4
	八頭町	385.8	0	0.2	4.4	0	0	0	0	1.5
中部	倉吉市 中野	0.2	0	0.0	0	0	0	0	0	0.8
	湯梨浜町 別所	0	0	3.0	0	0	0.1	3.5	3.3	2.0
	北栄町 由良宿	0	0	0.8	0	0	0	0	2.7	11.3
	琴浦町 竹ノ内	82.3	0	1.2	0	0	0.0	1.0	0.0	6.7
西部	大山町 坪田	0	0	0.6	0	0	0.0	0	0	1.1
	南部町 朝金	0	0	2.4	0	0	0.0	0	0	4.7
県平均		52.0	0	1.3	0.5	0	0.0	0.5	0.7	3.7

¹：平年はH16～25年の平均値

²：カンザワハダニ、ナミハダニはバンドを回収後、一定数を恒温器室内（23℃設定）で3週間程度観察し、種類別数を比率により推定

調査方法：9月に紙バンドをほ場に設置。園あたり6バンド（1樹3バンド、2樹設置）。
12月に紙バンドを回収後、バンドあたりのカンザワハダニ及びナミハダニ越冬個体数を調査。
同時に園あたり40短果枝を採取し、短果枝あたりのクワオオハダニ越冬卵数を調査。

2. 防除上注意すべき事項

秋期にハダニ類の発生密度が高かった園では、越冬量が多いと予想されるため、休眠期の防除を徹底する。カンザワハダニ及びナミハダニには（1）～（3）、クワオオハダニには（3）が有効である。

（1）誘殺バンドの取りはずし

主枝や亜主枝に誘殺バンドを設置している園では、12～2月にバンドを取りはずして処分する。

（2）粗皮削り

12～2月に、カンザワハダニやナミハダニの越冬場所である粗皮を削り取る。特に、誘殺バンドを巻き付けた部分の粗皮は必ず削り取っておく。

（3）薬剤散布

3月中旬に、マシン油乳剤（ハーベストオイル）50～100倍液を散布する。

〔 クサギカメムシ 〕

平成25年度から調査方法を変更しました。

1. 情報の内容

(1) ベニヤ板トラップ調査によると、クサギカメムシの越冬成虫数は、1トラップあたり0頭であった。

表1 ベニヤ板トラップ調査*によるクサギカメムシの越冬量

調査地点	2013 年	2014 年
鳥取市河原町	0.5	0
鳥取市佐治町	0	0
八頭町	0	0
倉吉市関金町	0	0
湯梨浜町	0.5	0
北栄町	0	0
琴浦町	0	0
大山町	0	0
南部町	4.0	0
平均	0.6	0

*表中の数字は、1台あたりの成虫数を示す。設置数は2トラップ/地点

調査方法：9月下旬にベニヤ板トラップを各地点に設置。地点あたり2トラップ、ベニヤ板間の隙間は3mm。
12月にトラップを回収後、トラップあたりのクサギカメムシ越冬個体数を調査。

(参考)

表2 簡易小屋トラップ調査によるクサギカメムシの越冬量*

調査地点	本 年	前 年	平 年**
八頭町 花原	1	0	5.4
北栄町 由良宿	0	0	0.2

*表中の数字は、1トラップあたりの成虫数を示す。

** 平年はH16～25年の平均値。

2. 防除上注意すべき事項

- (1) クサギカメムシは、果樹園内の作業小屋などで越冬しているため、休眠期の防除対策として、3月までに小屋を清掃し、越冬成虫を必ず捕殺しておく。
- (2) 例年発生が多い園では、4月以降、定期的には場所を見回るなどして、春先の発生程度の把握に努める。